

第2次紀の川市長期総合計画後期基本計画策定に係る

アンケート調査報告書概要（高校生世代）① 【資料②】

1. 調査の概要

- ・調査期間 令和4年2月1日～2月22日
- ・調査対象 満16歳から満18歳の住民1,000人
- ・有効回答率 35.6%

2. 主な調査結果

1. 紀の川市の印象(「第2次紀の川市長期総合計画基本計画策定に係るアンケート調査報告書 (高校生世代)」P.4～8)

○紀の川市が「好き」な理由として、「住み慣れたまちだから」「自然環境がよいから」「野菜やフルーツが豊富だから」などの回答が多くありました。地域コミュニティの希薄化が進んでいると考えられる中、「地域の人や近所の人が優しいから」の回答が3割程度あり、一定程度の地域のつながりがあることがわかります。

高校生		若者	
1.住み慣れたまちだから	81.2%	1.住み慣れたまちだから	67.3%
2.自然環境がよいから	54.2%	2.自然環境がよいから	45.4%
3.野菜やフルーツが豊富だから	42.9%	3.野菜やフルーツが豊富だから	42.0%
4.まちが安全で安心だから	32.8%	4.子育て環境がよいから	34.3%

○一方で「嫌い」な理由としては、「休日に出かける場所がないから」「交通の便が悪いから」「買い物が不便だから」など、外出時の不満に関する回答が目立ちます。

高校生		若者	
1.休日に出かける場所が少ないから	79.6%	1.休日に出かける場所が少ないから	67.2%
2.交通の便が悪いから	64.1%	2.交通の便が悪いから	62.0%
3.買い物が不便だから	53.9%	3.買い物が不便だから	41.9%
4.イベントが乏しいから	17.4%	4.病院等の医療施設が不十分だから	28.4%

第2次紀の川市長期総合計画後期基本計画策定に係る アンケート調査報告書概要（高校生世代）②

2. 将来の進路（P.9～11）

- 高校卒業後の進路について、「就職」と回答した方は「自宅から通える範囲」を希望する割合が高い傾向があります。
- 一方で「大学」「短期大学」「専門学校」と回答した進学する方は、「自宅から通える範囲」と同程度の割合で「関西圏（和歌山県を除く）」を希望しており、進学の際に紀の川市・和歌山県を離れてしまう傾向があります。

3. 定住意向・希望職種（P.12～16）

- 定住意向を問う質問では、「紀の川市に住み続けたいが、事情があり移らざるを得ない」「紀の川市以外の所に住みたい」と答えた方が全体の25.3%で、その方のうち多くが「大阪、神戸などの関西圏の大都市」に住みたい（住む予定）という結果になっています。
- 住み続けられない理由を問う質問では、前項の「紀の川市が嫌いな理由」と同様に、外出時の不満に関する回答がある一方で、「紀の川市から通える範囲に、将来勤めたい仕事が見つからないと思うから」が最も多い回答となっており、高校卒業後に県外へ進学する傾向があることから、Uターン就職を見込めない状況になっています。また、少数ではありますが、「安心して妊娠・出産・子育てできる環境にないから」と回答した2.2%の方が、子育て環境を理由に紀の川市を離れることを考えています。
- 希望する職種を問う質問では、「専門職・技術職」と回答した方が最も多く、特に進学を希望する方に多い傾向にあります。就職を希望する方については、サービス業（介護等）、生産工程職（製造等）といった地域で人材不足となっている業種を希望する傾向にあります。

第2次紀の川市長期総合計画後期基本計画策定に係る アンケート調査報告書概要（高校生世代）③

4. 紀の川市のこれからのまちづくりについて（P.17～18）

○重要施策を問う設問で、最も回答が多くなったのは「道路や公共交通など、交通が便利なまち」で、例年行っている「紀の川市市民意識調査（令和3年度）」の結果から分かる重点検討施策と一致しています。

重要施策	
1.道路や公共施設など、交通が便利なまち	43.3%
2.年齢や障害に関わらず誰もが安心して暮らせるまち	40.4%
3.犯罪の少ない安全安心なまち	32.3%

3. 自由意見 まとめ

○公共交通の充実、改善を求める意見が多数ありました。

○域外に遊興施設が多くあるので、市内にも遊興施設や商業施設（大規模）を作ってほしいという要望が多数ありました。

○進学し、就職となる際に戻ってきたいと思えるまちづくりの推進が求められています。

○地域活動が停滞しているので、若者が集まるイベントの開催を求める意見がありました。

○情報発信に力を入れ、SNSなどを用いて、域外の人達に紀の川市に来たいと思わせるPRをしてもらいたい。